

2025年の木材輸入実績

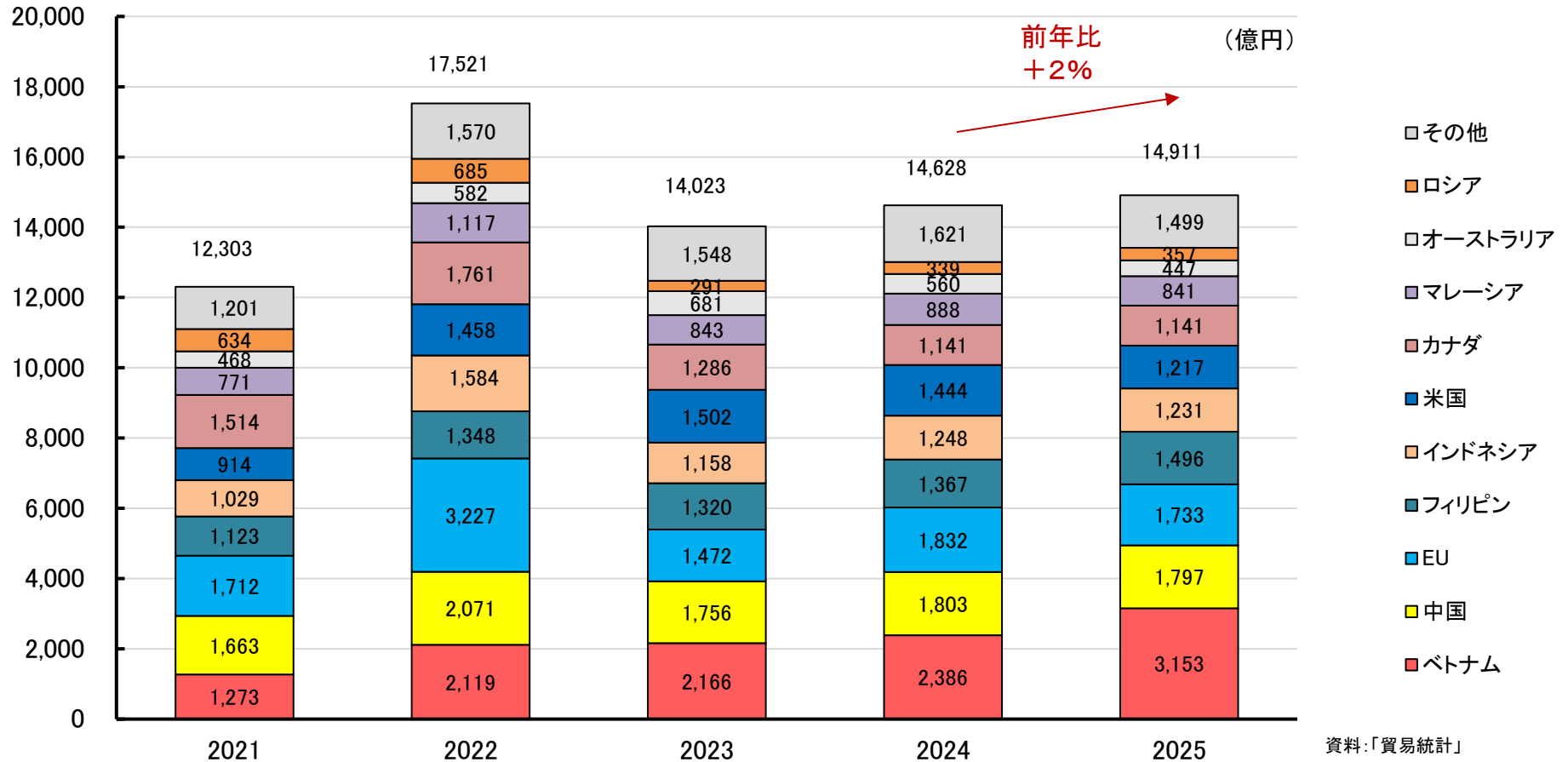
貿易統計 3月12日公表(確々報値)

林野庁 木材貿易対策室

1. 木材輸入額

- 2025年の木材輸入額(HS44類)は、1兆4,911億円。
- 木材輸入額第1位はベトナム(主な輸入品目はチップ・ペレット)、第2位は中国(主な輸入品目は食卓・台所用品、LVL等)、第3位はEU(主な輸入品目は製材・構造用集成材)となった。

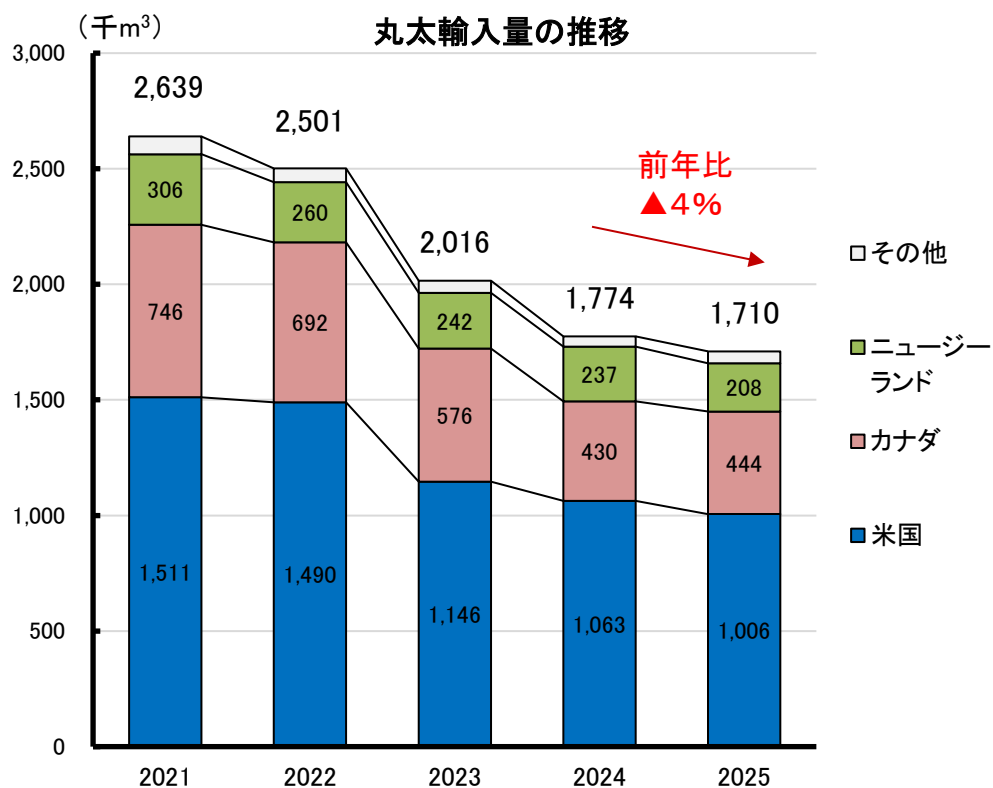
木材輸入額の推移



資料:「貿易統計」
(2025年は確々報値)

2. 品目別輸入動向－(1)丸太

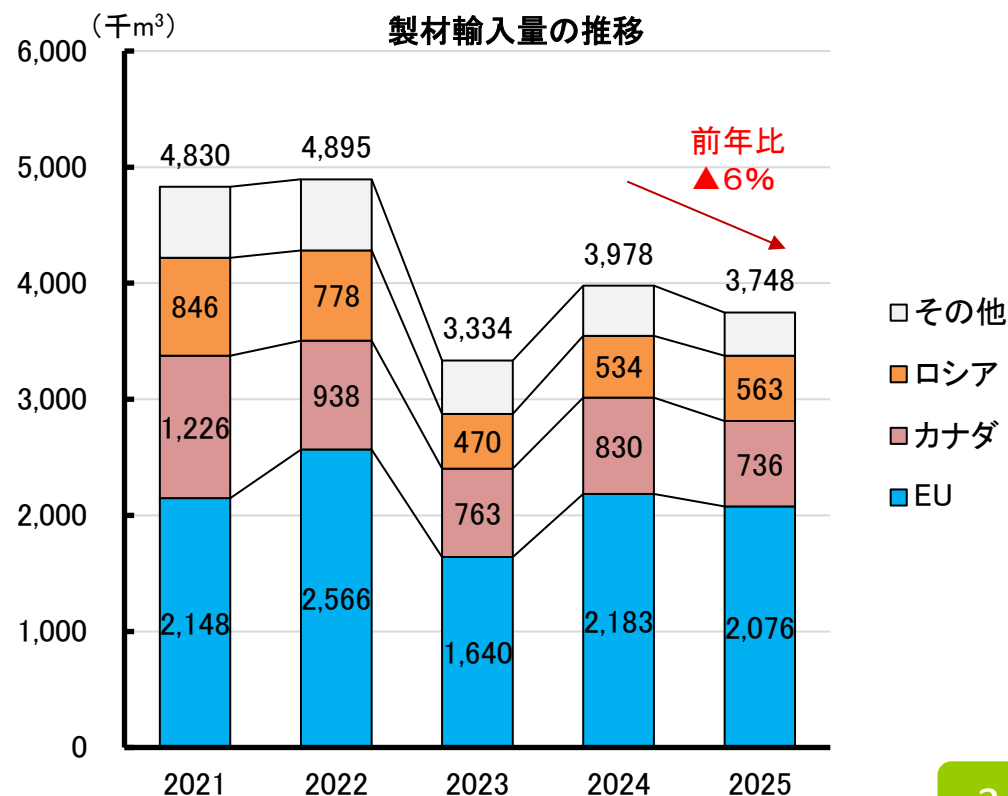
- 2025年の丸太輸入量は、前年比▲4%減の171万m³。
- 米国（シェア：59%）は、同▲5%減の101万m³。国内需要の停滞や円安による輸入コスト高により、輸入量が減少。ベイマツ丸太の製材大手が2023年の工場火災被害から一部工場を再開。
- カナダ（同26%）は、同+3%増の44万m³。合板メーカーが長尺用合板のベイマツ丸太をまとめて輸入したことなどから、輸入量が増加。
- NZ（同12%）は、同▲12%減の21万m³。NZ産丸太は主に梱包材用。輸入港への配船間隔の拡大や円安により輸入コストが下がり、国産スギ材への転換が進んでいる。



資料：「貿易統計」
（2025年は確々報値）

(2) 製材

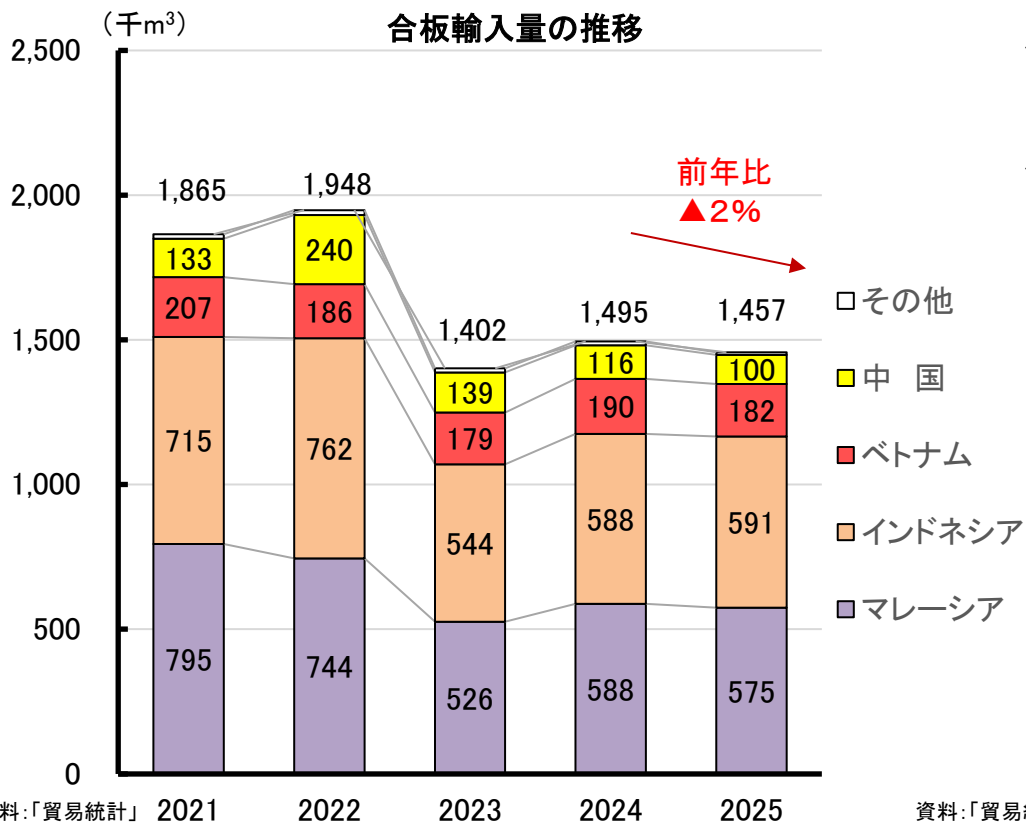
- 2025年の製材輸入量は、前年比▲6%減の375万m³。
- EU（シェア：55%）は、同▲5%減の208万m³。国内需要の低迷や産地製品高、円安による輸入コスト高により、輸入量は減少。コスト面で輸入材から国産材への切り替えが進んでいる。
- カナダ（同19%）は、同▲11%減の74万m³。SPF製材は、EU同様に、国内需要の低迷や産地製品高、円安による輸入コスト高により、輸入量は減少。
- ロシア（同15%）は、同+5%増の56万m³。アカマツ製材について、需給の面で年の前半にまとまった輸入が続いたことなどから、輸入量が増加。



資料：「貿易統計」
（2025年は確々報値）

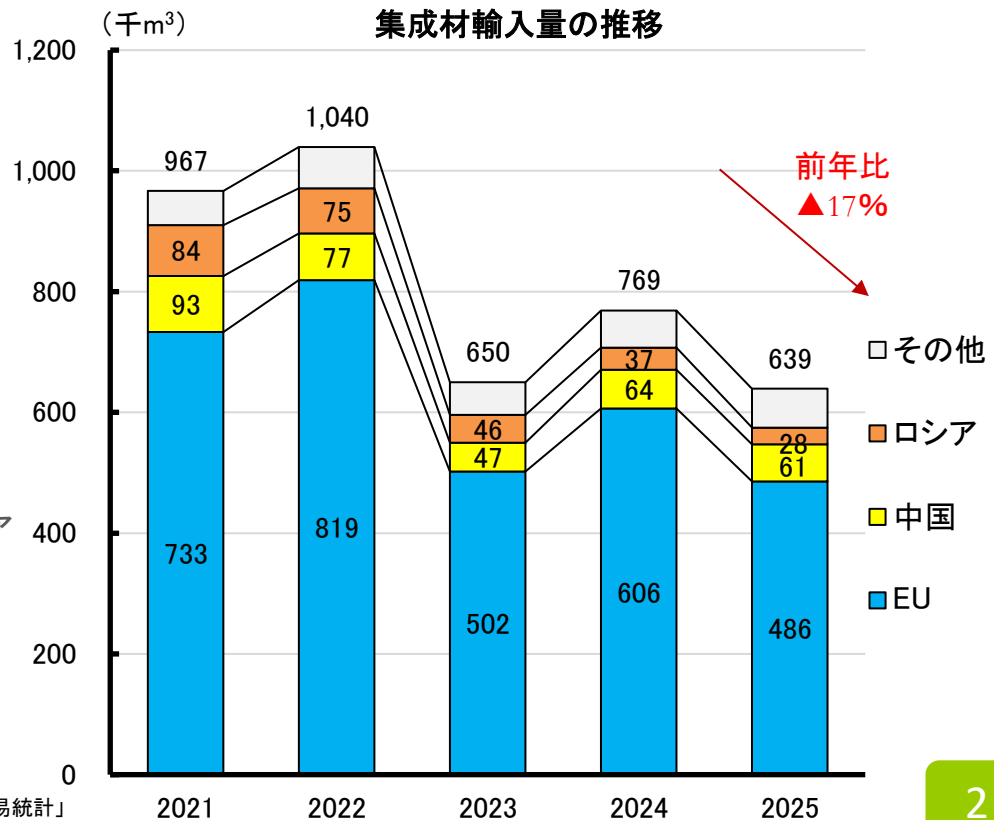
(3) 合板

- 2025年の合板輸入量は、前年比▲2%減の146万m³。
- インドネシア（シェア：41%）は、前年比+1%増の59万m³。マレーシア（同39%）は、前年比▲2%減の58万m³。型枠合板の需要低迷や円安による輸入コストの増加等により輸入量は減少。
- ベトナム（同12%）は、前年比▲4%減の18万m³。中国（同7%）は、前年比▲14%減の10万m³。



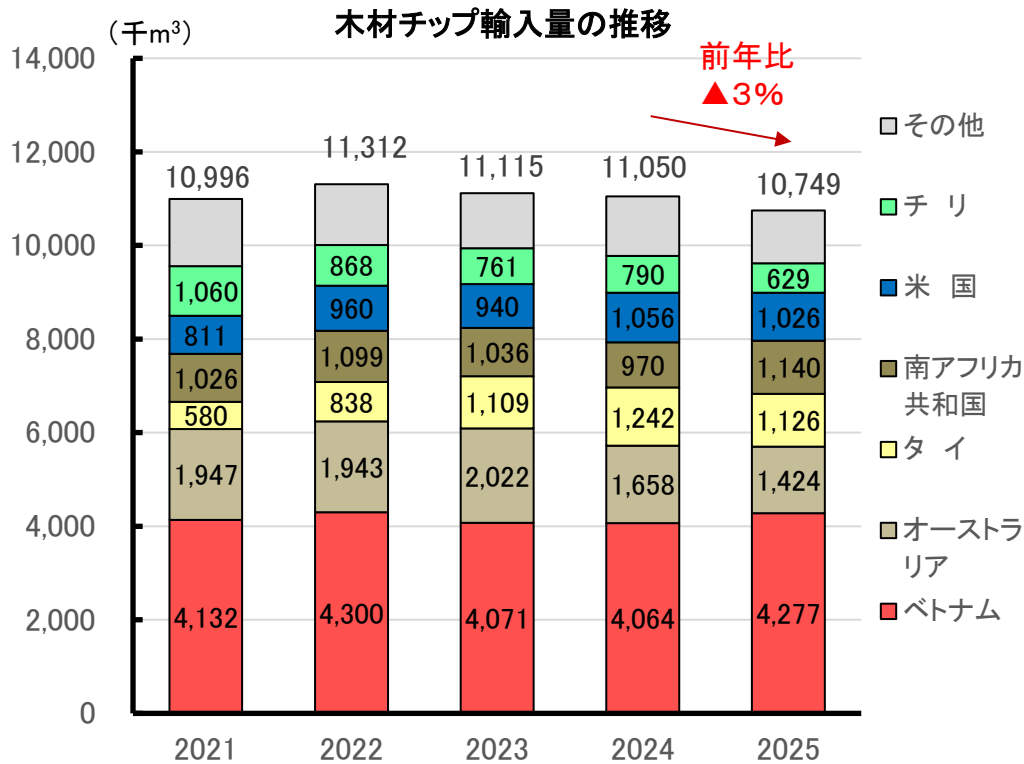
(4) 集成材

- 2025年の集成材輸入量は、前年比▲17%減の64万m³（うち構造用集成材：53万m³）。
- EU（シェア：76%）は、前年比▲20%減の49万m³。国内の需要低迷や円安による輸入コストの上昇に加え、域内での相次ぐ工場閉鎖も影響し、輸入量は減少。
- EU加盟国別では、フィンランドが前年比▲22%減の22万m³、ルーマニアが同▲42%減の6万m³、オーストリアが同▲6%減の8万m³。特にルーマニアの輸入量が大きく減少。
- 中国（シェア：10%）は、同▲5%減の6万m³。ロシア（同4%）は、前年比▲24%減の3万m³。



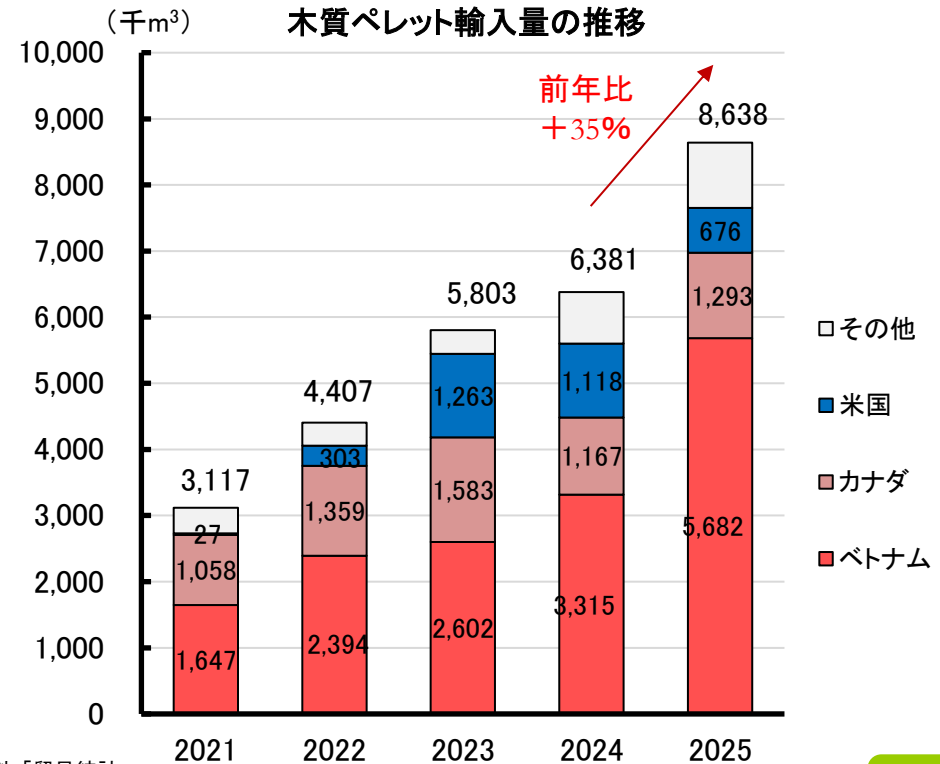
(5) 木材チップ

- 2025年の木材チップ輸入量は、前年比▲3%減の1,075万トン。
- 輸入木材チップの主な用途である、紙・板紙はデジタル化や少子化等により、グラフィック用紙を中心に内需は長期にわたり減少傾向。2025年も、印刷用紙や梱包に使う段ボールなど板紙の需要減少が続く。
- ベトナム（シェア：40%）は、前年比▲5%増の428万トン。オーストラリア（同13%）は同▲14%減の142万トン、タイ（同10%）は同▲9%減の113万トン。



(6) 木質ペレット

- 2025年の木質ペレット輸入量は、前年比+35%増の864万トン。国内では、FIT制度及びFIP制度を背景とした木質バイオマス発電所の新規稼働が相次いでおり、国内需要の高まりから近年輸入量が急増。木質ペレットは燃焼効率の高さなどから輸入が大幅増。
- ベトナム（シェア：66%）は同+71%増の568万トン。カナダ（同15%）は同+11%増の129万トン、米国は（同8%）は同▲40%減の68万トン。ベトナムからの輸入量は年々増加傾向。



資料:「貿易統計」
(2025年は確々報値)

資料:「貿易統計」
(2025年は確々報値)